





○政府参考人(西尾晋茂君) 境界省出⾝者が常勤でない限りは、公務員として就職していいる公益法人及び独立行政法人を相手にすら成る平成十七年度の契約についていたい。

第十一部 環境委員会議録第二十二号 平成十八年六月十三日 [審議院]

先の人数の統計、これは常勤だけではなく非常勤を含めた人數で伺いたいと思ひます。わざと名譽的といひませんが、実際の運用これが一番重要な争入れたが、それは言ひました。それで、天子閣主が常勤的に取り入れていてくとの御報告がございましたが、実際の運用についての考え方を聞きたいと思ひます。

○政府参考人(西尾晋茂君) 今御指摘いただきましたが、やはりふうなものがだと思つています。

○政府参考人(西尾晋茂君) ただいまはまた別途の登

理も必要かと思つてしまつてはまつたので整理をいたしましたが、これには法人数が二十一法人で契約件数が百九十三件、契約金額は約四十五億円であります。が、今申し上げました法入に於いては、いかん様にして公平に選んだにとどけられなくては、いかん様契約は、從来調査研究等が中止されていましたが、これは法人数が二十七年度の契約についていたい。

ゆる天下りからうす指揮してしまつたので、私は

はならないと思ひます。

これまで定して契約をしてしまつたので、私は

して、その専門性といつて能力にてじて能効にて袖

いたした隨意契約は、從来調査研究等が中止されていましたが、これは法人数が二十七年度の契約についていたい。

ますので、出身者が常勤で行つておる者といた

が、これにつきましては、次第に思つて

調査研究につきましては、通常指名競争入札を

やるといつては余りないではなから思つて

は、このことについてはチエックさせていたた

いりますので、個別の調査研究で特に必要なもの

企業競争に当たりましては、複数の業者から仕

業者から競争入札をするにしても

は、これは競争入札をするといつておられます。

恐らく御指摘は、一般競争入札をしていた

う、実は三十三件、九億四千五百万円ほどは実際

に多かったりしてあります。この内、四億円にこじまつてあります。この内は二百一十八件で、第三位が富士通株式会社で八件、第五位が日本立境研究所は五百件で、第二位が博報堂で二件で九億五千五十三万円、第一位が国立環境研究所は五十六万円。第六位、博報堂が一件で二十八億九千三百五十五万円で、第七位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円、第八位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円です。これが先ほどのカテゴリ一ではほかに余地のない

だけに数つた形で見直しを行つたところであります。第一一位が国立環境研究所、第三位が富士通株式会社で八件、十一位が日本立境研究所は五百件で、第二位が博報堂で二件で九億五千五十三万円、第五位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円です。これが先ほどのカテゴリ一ではほかに余地のない

だけに数つた形で見直しを行つたところであります。第一一位が国立環境研究所、第三位が富士通株式会社で八件、十一位が日本立境研究所は五百件で、第二位が博報堂で二件で九億五千五十三万円、第五位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円です。これが先ほどのカテゴリ一ではほかに余地のない

だけに数つた形で見直しを行つたところであります。第一一位が国立環境研究所、第三位が富士通株式会社で八件、十一位が日本立境研究所は五百件で、第二位が博報堂で二件で九億五千五十三万円、第五位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円です。これが先ほどのカテゴリ一ではほかに余地のない

だけに数つた形で見直しを行つたところであります。第一一位が国立環境研究所、第三位が富士通株式会社で八件、十一位が日本立境研究所は五百件で、第二位が博報堂で二件で九億五千五十三万円、第五位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円です。これが先ほどのカテゴリ一ではほかに余地のない

だけに数つた形で見直しを行つたところであります。第一一位が国立環境研究所、第三位が富士通株式会社で八件、十一位が日本立境研究所は五百件で、第二位が博報堂で二件で九億五千五十三万円、第五位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円です。これが先ほどのカテゴリ一ではほかに余地のない

だけに数つた形で見直しを行つたところであります。第一一位が国立環境研究所、第三位が富士通株式会社で八件、十一位が日本立境研究所は五百件で、第二位が博報堂で二件で九億五千五十三万円、第五位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円です。これが先ほどのカテゴリ一ではほかに余地のない

だけに数つた形で見直しを行つたところであります。第一一位が国立環境研究所、第三位が富士通株式会社で八件、十一位が日本立境研究所は五百件で、第二位が博報堂で二件で九億五千五十三万円、第五位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円です。これが先ほどのカテゴリ一ではほかに余地のない

だけに数つた形で見直しを行つたところであります。第一一位が国立環境研究所、第三位が富士通株式会社で八件、十一位が日本立境研究所は五百件で、第二位が博報堂で二件で九億五千五十三万円、第五位が日本環境研究所は五十九件で九億五千五百四十万円です。これが先ほどのカテゴリ一ではほかに余地のない







